

企業名：サンケン電気

レポート名：サンケンレポート 2023

### 1. この会社が目指している将来の姿が理解できるか

理解できる。サンケン電気は、パワーエレクトロニクス技術を活用して持続可能な社会の実現に貢献することを目標としている。同社は「Power Electronics for Your Innovation」をスローガンに掲げ、顧客や社会のニーズに応える革新を続ける企業でありたいという強い意思を示している。このスローガンには、社会に対してはエネルギー効率の高いソリューションを提供し、さらに次世代の技術革新を促進することで、広範な影響を及ぼそうとする意図が込められている。市場や省エネ家電といった成長分野への注力も、長期的な視野での持続可能な成長を志向していることを示している。こうした戦略と目標から、単に利益を追求するだけでなく、環境と社会に配慮した企業であり続けようとする姿勢が明確に伝わってくる。

### 2. この会社の現在の競争優位性が理解できるか

同社の競争優位性は、大きく三つの要素によって支えられていることが報告書から読み取れる。まず、長年にわたって積み重ねてきた「すり合わせ技術」と呼ばれる高度な製品設計力が、技術面での強みを構築している。同社は「SPP (Sanken Power-electronics Platform)」という独自のプラットフォームを用いて効率的な製品開発を実現しており、これにより製品のカスタマイズの削減やリードタイムの短縮を可能にしている。この SPP に基づく製品設計力は、自動車や産業機器といった厳しい基準が求められる市場での競争力を支える重要な要素になるだろう。次に、サンケン電気は日本国内外に複数の生産・販売拠点を持ち、グローバル市場における柔軟な対応力を備えている。特に売上の 70%以上を海外市場から得ていることが示すように、同社は幅広い地域での市場展開により安定した売上基盤を築いている。さらに、環境・社会・ガバナンス (ESG) への積極的な取り組みも競争優位性の一つとして際立っている。同社は 2030 年までに温室効果ガス排出量を 33%削減する目標を掲げ、一部拠点で再生可能エネルギーの導入やオンサイト PPA を実施するなど、実行可能なアプローチで環境目標を達成しようとしている。こうした多面的な取り組みにより、サンケン電気は競争優位性を高めるだけでなく、持続可能な成長の基盤を強化していると言える。

### 3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

上記の競争優位性には、長期的に持続可能な要素が多く含まれていると考えられる。まず、SPP によって製品の効率的な開発が可能となり、製品の品質とコスト競争力が維持される

体制が整っている。この効率的な開発体制に加えて、デジタル技術を積極的に活用し、生産ラインや業務プロセスを改善する DX の取り組みが進められていることから、開発・生産プロセスのさらなる効率化が期待できる。また、環境への配慮を重視した製品ポートフォリオも、長期的に競争優位性を維持するための重要な要素になる。特に Scope1 および Scope2 での GHG 削減に加え、サプライチェーン全体を考慮した Scope3 の取り組みも強化しているため、環境負荷軽減への意識が社会的にも高く評価されると予想される。今後、社会からの支持と評価を得続けるためには環境に配慮した製品やサービスの開発が必要とされる中、同社の方針は競争優位性を持続させる強力な武器になると考えられる。

#### 4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

同社は、社員のスキル向上に対する意識が高く、そのための支援体制が整備されていることが報告書から理解できる。まず、「スキルマップ」を活用して社員一人ひとりのスキルや能力を可視化し、上司とキャリアプランについて具体的に話し合う場が設けられている。このように個別の成長を促す体制が整えられていることから、社員は自分の強みや不足部分を把握しやすく、自己の成長に取り組みやすいと考えられる。また、次世代リーダー育成のための研修プログラムが充実している点も評価できる。また、管理職向けのグループコーチングや若手社員へのキャリア支援が記載されており、異なる世代や職務階層に合わせた多様な成長機会が提供されている点にも魅力を感じた。さらに、社員同士や経営陣との対話が重視されており、オープンな意見交換が行える風土も醸成されている。このようなサポート体制により、同社での勤務は自分のスキルを高める絶好の場となり得ると考えられる。

#### 5. 報告書のよかった点はどこか、どのような改善余地があるか

報告書には、同社のビジョンや強み、ESG 活動に関する具体的な目標が豊富に記載されており、企業としての方向性と実績が理解しやすい点が非常に良かったと感じた。まず、SPP と DX 戦略について、詳細かつ具体的に記載されており、効率的な開発の進め方や標準化への取り組みがよく理解できた。これにより、同社がいかにして競争優位を確保しているのか、そして将来にわたって強みを持続させようとしているかが強く伝わってきた。また、ESG 活動に関しても、Scope1・Scope2 削減目標が数値として明確に示されているほか、実際に再生エネルギーの導入やオンサイト PPA を通じての取り組みが進んでいることが確認でき、環境意識の高さがしっかりと裏付けられていた。さらに、社員一人ひとりが ESG 活動に参加できるよう、各種教育や活動支援が行われている点も評価できる。

一方で、報告書の改善点としては、情報の整理と一貫性が挙げられる。例えば、SPP や製品戦略についての説明が異なる章で何度も繰り返されており、読者が一度で理解できるように内容をまとめて提示する方が、全体としての読みやすさが向上すると感じた。また、デザインにおいても章ごとに異なるフォーマットや色彩が使われているため、統一感がやや

欠けている印象を受けた。統一したデザインガイドラインに基づき、ビジュアル面での整理を進めることで、視覚的にもメッセージが伝わりやすくなると考えられる。また、技術的な強みや ESG 活動の進捗に関しては実績のデータが豊富であったが、具体的な事例や社員の声が不足しているように感じた。より読者が共感できるように成功エピソードや現場の意見も追加されると、報告書の説得力がさらに高まると感じた。

**【参考文献】**

サンケン電気統合報告書 2023 最終閲覧日：2024/11/15

[https://ssl4.eir-parts.net/doc/6707/ir\\_material\\_for\\_fiscal\\_ym1/143369/00.pdf](https://ssl4.eir-parts.net/doc/6707/ir_material_for_fiscal_ym1/143369/00.pdf)